Japonisme and Music

ジャポニスムにおける音楽――なぜ音楽は辺縁に置かれたか

　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　 　ITO, Ujitaka

19世紀半ばから、1880年頃を最盛期として1910年頃まで、欧米を席巻したジャポニスムにおいて、しかしながら音楽はあまり受け入れられなかった。その複合的理由を探る。

**０.ジャポネズリーとジャポニスム**

japonaiserie ：日本趣味。19世紀後半以降の欧米で成立した日本美術への興味、関心。また、浮世絵・書画などの美術品収集や、これを模倣した欧米人の作品。

japonisme　：西欧美術における日本美術の影響。19世紀半ば以降、印象派の絵画やアールヌーボーの工芸などに顕著にみられる。

「デジタル大辞泉」

japonisme：幕末に日本が開国して以後さまざまな日本美術が欧米に紹介されたが、これに影響されて生じた日本趣味をジャポニスムという。このころに運ばれた美術品、またこれに触発されて欧米でつくられた作品を総称するジャポネズリーということばも生まれたが、定着しなかった。日本美術を欧米に運んだ人々としてはシーボルトらオランダ商館関係者に続いてオールコック、オリファント、サトー、シャシロンらがあり、1860年代に日本美術に接したのは主としてイギリスのラファエル前派とフランスの印象派およびその周辺の人々であった。ジャポネズリーには単なる模倣や消極的な受容から創意あふれる摂取に至るまで無数の段階があり、最後の例を総括してジャポニスムとよぶことが多いが、両者の区別はいまなお明瞭でない。だが近世ヨーロッパでのシノワズリーやトルコ趣味などより、ジャポニスムのほうが持続的でもあり内容が充実してもいることは確かで、ことばの意味を広くとれば、建築や造園、文学や音楽、モードの分野にまでジャポニスムを認めることができる。 ［池上忠治］　『世界大百科事典』

・ジャポネズリー：模倣、引用

ジャポニスム：ジャポネズリーよりも深い影響。創造の契機

・基本的には美術用語、そこから工藝、建築、造園、服飾、文学、おそらく最後に音楽。

**１．美術と音楽のジャポニスム年表**

1856　ブッラクモン「北斎漫画」に出会う

1867　パリ万博

1868 美　Manet ‘Portrait d'Émile Zola’　　ジャポネズリー

1871　音　Saint-saens　*‘La Princesse Jaune’*話題としてのジャポニスム。舞台は蘭。

1876 美　Monet *‘La Japonaise’*ジャポネズリー

1885　音　Gilbert and Sullivan *‘The Mikado or The Town of Titipu’*イメージ。引用。

1892 美　Toulouse-Lautrec *‘Reine de Joie’*ジャポニスム

1904 音　Puccini *‘Madama Butterfly’*文学。引用。

1905 音　Debussy *‘La Mer’*絵画からのイメージ。

音　Ravel ‘*Une Barque sur l’Ocean*’ from ‘*Miroirs*’　絵画からのイメージ。

1915 音　Holst *‘Japanese Suite’*ジャポニスム？

**２．教育的・政治的要因**

東京美術学校：1887年10月設立。1890年に就任した岡倉天心が事実上の初代校長。副校長はフェノロサ。開校時の教官は黒川真頼・橋本雅邦・小島憲之、のち川端玉章・巨勢小石・加納夏雄・高村光雲。1893年には第1回卒業式を挙行し、横山大観らの卒業生を送り出した。

1896年西洋画科・図案科新設。前者には黒田清輝・藤島武二・和田英作・岡田三郎助、後者に福地復一・横山大観・本多天城らが教官として就任、以後、洋画興隆の基礎が形成された。同じ頃、岡倉校長の専権的な学校運営に対する批判が起こるようになり、1898年「美術学校騒動」として表面化、岡倉を始めとして橋本・横山・下村観山・菱田春草ら多数の教官が退任し日本美術院を結成した。

東京音楽学校：1887年10月設立。伊沢修二が事実上の初代校長。その後奏楽堂を含む校舎が新築され、1890年5月12日に開校。学校設立に当たっては、東儀鉄笛ら雅楽師も関与したが、教授内容は西洋音楽のみ。

1907年に邦楽調査掛設置。20世紀に入った頃から瀧廉太郎・山田耕筰・信時潔ら作曲家を輩出するようになり、以後音楽家・音楽教師・音楽鑑賞家を養成する中心的教育機関となった。

　フェノロサ―天心：藝術としての美術

　メイソン―伊沢　：教育としての音楽

**３．東西の耳**

　しかしその後に、彼らが「歌う」（謡）と称する苦悶の叫び声の演技が始まる。それは、蛮風の精髄ともいうべき響きがあり、主として「ノー」という音を長く振動させるだけのものである。私はその音を聞くと、野蛮人の間に入っているような気分になる。

　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　イザベラ・バード『日本奥地紀行』

　外国人の立場からいうと、この国民は所謂「音楽に対する耳」を持っていないらしい。彼等の音楽は最も粗雑なもののように思われる。和声の無いことは確かである。彼等はすべて同音で歌う。彼等は音楽上の声音を持っていず、我国のバンジョーやギタアに僅か似た所のあるサミセンや、ビワにあわせて歌う時、奇怪きわまる軋り声や、うなり声を立てる。

　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　エドワード・モース『日本、その日その日』

〇西洋の音楽の三要素：

　　メロディ・リズム・ハーモニー

〇日本の伝統音楽の特徴

　　・上記の要素が必須でない

　　・重層性　　雅楽：貴族／能楽：武士／三味線音楽：町民　＋平曲、里謡

　　・語りもの（平曲、能楽、浄瑠璃）と歌もの（左記以外）　いずれにせよ詞中心

　　　　　作曲compose に対して「節付け」「手付け」

　　・音そのものを楽しむ

　　　　　自然音に近づける　能管、三味線などの構造改変

**４．美術と音楽の置かれていた状況**

　美術　ミレー、クールベ、ターナーの時代

　　　　一点透視図法とタッチによる写実の限界

←ダゲレオタイプ、カロタイプ1839、湿板写真1851

　音楽　ワーグナー、ブラームスの時代

　　　　調性と形式に基づく音楽はまだつづく

　　　　十二音　シェーンベルク1921